

子牛の呼吸器病に気をつけよう

根室北部事業センター 第三家畜診療課 獣医師 神村 奈 於



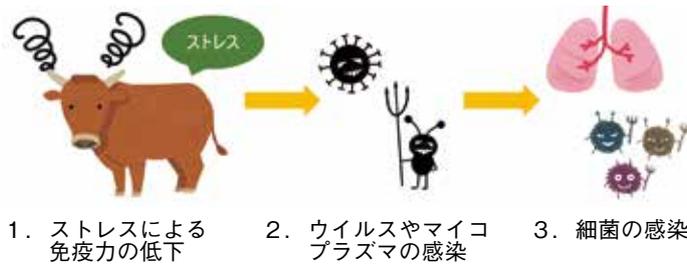
一段と寒さが増し、なかには咳や鼻水を垂らしている子牛がいるのではないのでしょうか。子牛は寒さに非常に弱く、これからのシーズンにはますます風邪の流行が予想されます。そこで、今回は子牛の呼吸器病とその予防対策についてお話しします。

△呼吸器病とは▽

牛の呼吸器病は子牛や育成牛で多く、進行も早いです。死産や発育不良・飼料効率の低下による肉質の低下など損失も大きいいため、消化器病と並んで経済的に被害の大きい病気とされています。

△原因▽

牛の呼吸器病は病原体の侵入や飼養環境、ストレス、個体の免疫力などが複雑に関係しあつて発症するため牛呼吸器病症候群（BRDC）と呼ばれています。強いストレス（寒暖差・輸送・離乳・密飼い・換気不足・牛床の汚れなど）がかかる



免疫機能が低下し、ウィルスやマイコプラズマなどが感染します。これが引き金となり鼻腔等に常在している細菌が気道内に侵入・定着・増殖し、呼吸器病症状を引き起こします。

症状としては、活力食欲減退・発熱・咳・鼻水・呼吸が早い・腹式呼吸などが挙げられます。

△予防対策▽

1. 十分な換気と保温

牛舎を締め切ると有毒なアンモニアガスが発生し、それを吸引することで気道粘膜が傷つき病原体の侵入を許してしまいます。そのため、定期的に換気を行い空気中のアンモニアガス濃度を下げましょう。また、十分な換気を行う上での寒さ対策として、カーフジャケットやネックウオーマーの装着、ヒーターの設置を行い、子牛を寒さから守りましょう。

2. 清潔な飼養環境

糞尿で汚れた敷料はアンモニア発生の原因です。また子牛の体表が濡れると体温が奪われ免疫の低下を引き起こします。敷料は多めに与え、頻繁に交換しましょう。

3. 密飼いの防止

1つの場所で飼う子牛の頭数を減らす、月齢や体格による群分け、カーフハッチを利用するなど実施しましょう。牛同士の接触の機会を減らすことで集団発生のリ

スクを減らすことができます。

4. 出生後の子牛の管理

出生後の子牛には十分な初乳を給与することで、母牛からの移行抗体が子牛に渡り、子牛に免疫力を与え、感染するリスクを抑えます。また、出生後の子牛の体はよく拭き乾かすことで、体温を保ち体力消耗を回避しましょう。

5. ワクチン接種

呼吸器病の原因となるウィルスや細菌に対するワクチンは子牛を感染から守るだけでなく、集団内における病原微生物の増殖・拡散を防ぐ効果があります。

※近年では、牛鼻腔内投与型ワクチンが発売されています。従来の注射型ワクチンと異なり鼻腔内に噴霧するだけなので、牛へのストレスが少なくて、そのほかに迅速な免疫獲得や子牛および妊娠牛への投与の安全性が認められています。従来の注射型ワクチンとの併用も可能です。

△最後に▽

呼吸器病は予防対策が重要になります。適切な初乳の給与や快適な飼養環境作りに取り組むことが呼吸器病の発生を抑えることができます。これらの対策を実施した上で、ワクチン接種を行うとより効果的な予防対策となります。常日頃から子牛をよく観察し、いつもと様子が違うと感じたら、すぐに獣医師に相談しましょう。